

まえがきに代えて

サッカーの世界ランキングを地図にする

皆さんは、「世界ランキング」というと何を思い浮かべますか？ランキングを地図にすると、どんなことが見えてくるのでしょうか？

図表0-1は、FIFA（国際サッカー連盟）の男子A代表の世界ランキングです。同じ国の中に複数の代表を出す地域（イギリスなど）があったり、自領などの非独立地域も代表を出すため、世界の国の独立国の数（日本が承認している国は196カ国）を上回る211のナショナルチームがあります。

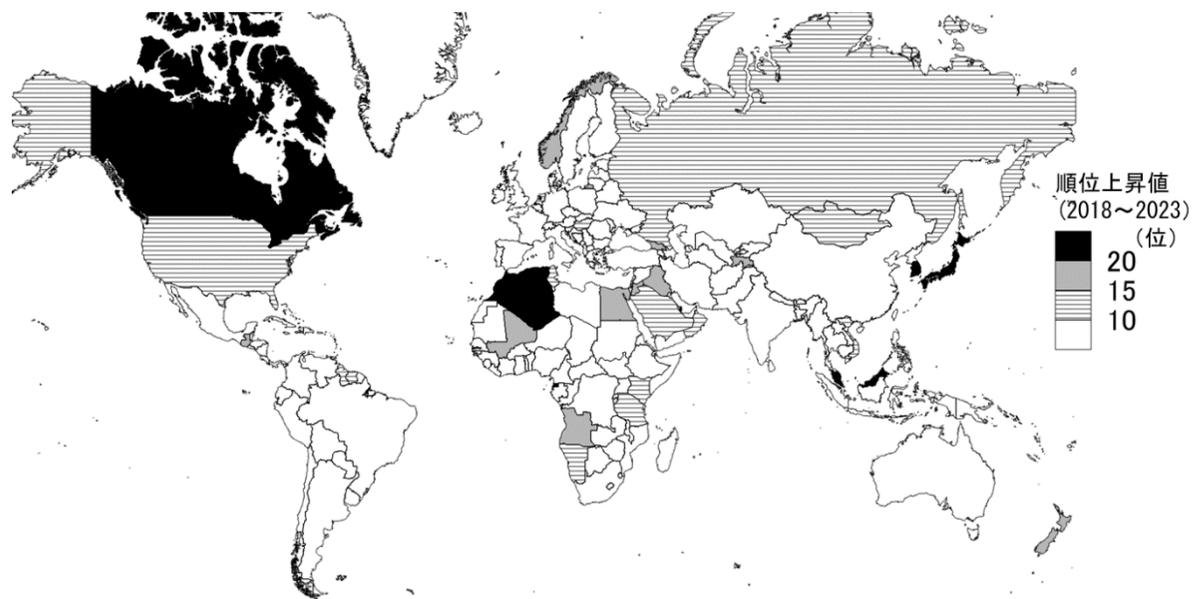
上位32カ国（本戦出場枠の総数）の分布を見ると、ヨーロッパ（19カ国）と南米（5カ国）に集まっているのがわかります。2022年大会（カタール）でのヨーロッパの出場枠13、南米は4・5でした。本大会に行ける実力ある国でも、大陸別予選突破が難しい激戦区です（2026年大会では拡大予定）。101位以下の国々は、小国（自治領を含む）や発展途上国に幅広く分布しています。本戦は夢のまた夢でも、定期的に国際Aマッチを戦う「おらが国（邦）の代表」を応援し、ランキングに一喜一憂する人々を想像してみるのも楽しいです。ちなみに、この時の最下位（第211位）は、ヨーロッパの小国サンマリノ共和国、第210位はカリブ海のイギリス領アンギラ諸島でした。



順位	国	ポイント
1	アルゼンチン	1840.93
2	フランス	1838.45
3	ブラジル	1834.21
4	ベルギー	1792.53
5	イングランド	1792.43
6	オランダ	1731.23
7	クロアチア	1730.02
8	イタリア	1713.66
9	ポルトガル	1707.22
10	スペイン	1682.85
20	日本	1588.59

図表0-1 国際サッカー連盟（FIFA）男子世界ランキング（2023年4月）

公式サイト (<https://www.fifa.com/fifa-world-ranking/men?dateId=id13974>) より作成

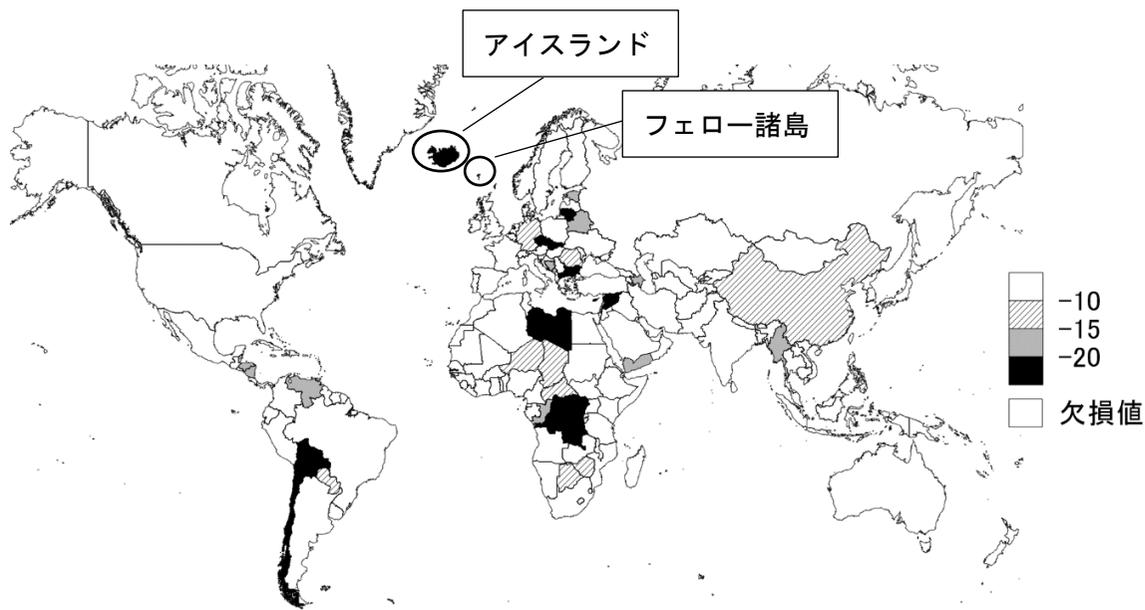


順位	国・地域	FIFA ランキング (位) (2018)	FIFA ランキング (位) (2023)	変動幅 (位)
1	赤道ギアナ	129	94	+35
2	マレーシア	171	138	+33
	カタール	94	61	+33
4	アルジェリア	66	34	+32
	モロッコ	43	11	+32
6	カナダ	76	47	+29
7	バーレーン	112	85	+27
8	韓国	51	27	+24
9	日本	41	20	+21
10	ジョージア	96	77	+19
	ヨルダン	103	84	+19

図表 0-2 FIFA 世界ランキングが上昇した国 (2018~2023)

出典：図 1 に同じ

地図化に使うランキングは、最新のものでなくてもかまいません。むしろ過去のランキングと比較することで、新たな気づきを得られることがあります。図表 0-2、0-3 は、現在のランキングのポイント集計のルールが適応された 2018 年 7 月と現在の FIFA 世界ランキングの順位の変動をみた地図です。順位を大きく伸ばした国は、中東からアフリカ諸国に集まっています。共通するのは天然資源（石油や天然ガス）が豊富に採れることです。1 位の赤道ギニアは 1992 年に天然ガス田が、1995 年に海底油田の採掘が始まり、2017 年に OPEC に加盟しました。2022 年のワールドカップに開催国枠で初出場したカタールは、有力な外国人選手の帰化も話題になりました。2022 年大会でアフリカ勢初の 3 位に入賞したモロッコ、隣国のアルジェリアもこの 5 年間で大きくランキングを伸ばしています。モロッコは準決勝で旧宗主国フランスと対戦しましたが、モロッコの A 代表にはフランスのプロリーグで活躍する選手も多くいます。旧植民地と宗主国のつながりが、代表の強化にどうつながっているのか、考えてみたいテーマです。



順位	国・地域	FIFA ランキング (位) (2018)	FIFA ランキング (位) (2023)	変動幅 (位)
1	アイスランド	22	64	▼42
2	フェロー諸島	93	125	▼32
3	スロバキア	24	51	▼27
4	コンゴ民主	45	70	▼35
5	ブルガリア	54	76	▼25
6	グアム	184	206	▼22
	リビア	99	121	▼22
	モーリシャス	158	180	▼22
	シリア	68	90	▼22
10	ボリビア	62	83	▼21
	チリ	10	31	▼21

図表2 FIFA世界ランキングが下降した国 (2018~2023)

出典：図1に同じ

順位が大きく下がった国

逆にこの5年間で順位を大きく下げた国の分布を見てみると、ヨーロッパに集まっていることがわかります(図表0-3)。10位以上順位を下げた国は44カ国ありましたが、うち21カ国がヨーロッパでした。その多くが東欧諸国と小国です。経済のグローバル化に伴う西ヨーロッパ企業の進出と再移転による不況が、各クラブや代表強化の財政を圧迫しているのかもしれない。

順位の下落幅が1位と2位という、あまり喜ばしい形ではありませんが、北大西洋の2つの島国(地域)が並んでいます。アイスランドの人口は約37万人、フェロー諸島(デンマークの自治領)は、人口約5.3万人(新潟県の佐渡島の人口が約5.2万人です)しかいません。でも、両国(地域)とも、ヨーロッパの国際Aマッチを転戦し、確かな結果を残しています。アイスランドは2018年(ロシア大会)のヨーロッパ予選を勝ち抜いて初出場を果たしました。フェロー諸島では1942年創設の「プレミアリーグ」(10チーム)を頂点とする地域リーグがあります。フェロー諸島の世界ランキングは、人口2.7億人のインドネシア(149位)よりも上です。

本書の構成

本書では、世界のあらゆる「ランキング」を地図化して、地図から読み取れることやその背景について考えます。

学校で使う地図帳の巻末には統計資料が載っています。また、教科書や資料集には、統計を基に作られたカラフルな地図がたくさん載っています。授業ではそれらの資料を使って何が読み取れるのか、なぜそのような分布になるのかを考えます。ただ、使われる統計は基本的に最新であることが前提であり、上位の国を探したり、覚えることはあっても、古い統計を地図にしてみたり、低位の国に注目することはあまりありません。また、それぞれの資料には必ず出典が明記されていますが、インターネット等を介して発行元にアクセスして「元のデータ」を見ることは、よほど熱心な地理の先生でもない限り、されることはないと思います。・・・よほど熱心な（物好き）地理の先生「日本代表」として、世界の統計資料の海に潜って、海女（海男）さんよろしくネタを集めて、著者自ら地図を描いてまとめたのが本書です。

地図の作図には、フリーのGISソフト「MANDARA」を使用しました。統計資料を使って白地図の塗り分けや図形表現図を描いたり、地図同士を重ね合わせるができるソフトです。地理の授業で操作を体験したことがあるかもしれません。白黒の、スペースが限られた紙面上で、できる限り見やすいように表現しましたが、多少見づらいところはご勘弁ください。MANDARAで見られるデータやカラーの地図画像は、追って筆者のブログ「いとちり」等で公開できればと思っています。

できる限り多くの資料を見てもらおうということで、地図と統計に紙面をあてましたので、かなり分厚い本になってしまいました（編集部の皆様、ありがとうございます）、どこから開いてもらっても楽しく読める構成になっています。パラパラとめくってもらって面白そうな地図とランキングがあったら手を止めて、まずは地図とランキングをじっくり眺めてみてください。本書は何よりも地図がメイン、素材の持ち味が命です。各項目の解説は、味付けの醤油やわさびみたいなものです。「なんか、しょっぱいな」と思ったら適度に読み飛ばして、またトライしてみてください。

ランキングと地図を通して読者の皆さんが「世界の今はこうなっているのか！」「面白いな。自分も地図を描いてみたいな」と思ってもらえれば本望です。世界のデータの「海の幸」を、頭から尻尾まで存分に堪能してください。